

郡山市日和田地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 適切な排水対策や雑草対策を実施し、収量の安定化と高品質な大豆生産を図る。
- 収量や品質の安定化により収益が向上し、水田農業経営の安定化が図られる。



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- ほ場条件を考慮した年数でブロックローテーション（水稻→大豆→水稻）
- 地域農業の担い手として、農地を借り受けて経営面積を拡大している。
- 作付面積の拡大に応じて、水稻作との労力分散や収益確保のため大豆栽培を拡大している。

表 作付面積の推移（単位：ha）

	H27	R3	R6
水稻	41.4	57.7	67.2
（内直播）	23.7	15.6	16.2
大豆	17.3	21.2	24.7
合計	58.7	78.9	91.9

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産を徹底>

- 実需者の要望を踏まえ、平成29年から「里のほほえみ」に品種を切替え

<適切な湿害対策と雑草・病害虫防除による安定生産・品質向上>

- 額縁明渠、心土破碎、自動操舵トラクタでの耕うん同時畝立播種による湿害対策
- 中耕培土（ディスク型）、土壌+茎葉処理剤による雑草防除の実施
- ドローンによる適期病害虫防除の実施

<水稻作業との労力分散>

- 5月は水稻移植、6月は大豆播種など、労力分散を図っている。



心土破碎



中耕培土

4 取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

- 高品質な大豆の安定生産が図られている（図1）。
単収：149kg/10a（R3）→139kg/10a（R6）
上位等級（1、2等）の比率が毎年**95%以上**（R4～6）

<水稻作業との労力分散>

- 大豆の作業時間は水稻よりも少なく、労力分散も図られている（図2）。
水稻作業時間：14h/10a、大豆作業時間：10h/10a（R6）

<安定した農業所得の確保>

- 販売収入+交付金により安定した収入を確保している。
大豆収入（R6）：83,639円/10a（内、交付金等が67,309円）

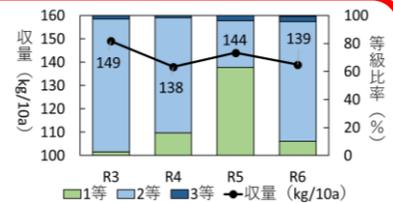


図1 大豆収量と等級比率



図2 旬別作業時間（R6）

5 課題（7年度のポイント）

- 一部ほ場で発生している難防除雑草（帰化アサガオ類）対策として、トリフルラリン乳剤の土壌混和処理などを実施し、収量の増加を図る。